

全国54,000人の“海の救難ボランティア”の活動を支えます。
「青い羽根募金」にご協力を



僕はホームベースを
 海の安全はこの羽根が守ります。



青い羽根募金アドバイザー
 大リーガー 城島 健司 選手

■募金の方法

口座振込みによる募金

郵便局

口座番号 00120-4-8400
 加入者名 社団法人 日本水難救済会

銀行

三井住友銀行 日本橋東支店
 口座番号 (普)7468319
 加入者名 社団法人 日本水難救済会
 青い羽根募金口

インターネット募金



- ・ホームページから以下の方法で募金
 ができます。
- ・クレジットカードはMasterCard、
 VISA、JCB、AMEXがご利用で
 できます。
- ・NTTコミュニケーションズが提供す
 るネット専用電子マネー「ちよコム」
 がご利用できます。

●お問い合わせ先 ☎0120-01-5587

募金フリーダイヤルでお申し出ください。振込料無料の専用郵便振替用紙をお送りします。



社団法人 日本水難救済会

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地 海事センタービル7階
 TEL: 03-3222-8066 FAX: 03-3222-8067

<http://www.mrj.or.jp> E-mail V1161@mrj.or.jp



「このイベントは競艇の交付金による日本財団の助成を受けて実施します」

平成21年度
日本財団 助成事業
 The Nippon Foundation

マリンレスキュー ジャーナナル

Vol 101 No 2
 2009|8月号

特集 マリンレスキュー紀行
**海の安全にかける
 男たちの群像**
 伊豆地区水難救済会 稲取救難所



**「青い羽根募金 2009」
 活動レポート**

MRJ歴史探訪
**ボランティア精神の
 源を訪ねて**



社団法人 日本水難救済会
 マリンレスキュージャパンは、(社)日本水難救済会の愛称です。



おことばを述べられる名誉総裁憲仁親王妃久子殿下



名誉総裁表彰審査委員長の挨拶

**水難救済の功績に対し、
2団体1個人が表彰されました**

平成21年5月21日、海運クラブにおいて平成21年度社団法人日本水難救済会名誉総裁表彰式典が実施されました。

名誉総裁である高円宮憲仁親王妃久子殿下ご臨席のもと、来賓として加納時男国土交通副大臣、岩崎貞二海上保安庁長官、琴陵容世金刀比羅宮宮司を招き、式典を盛大かつ厳かに執り行いました。

式典は、名誉総裁表彰審査委員会委員長の相原会長から被表彰者の功績が披露された後、表彰状が伝達され、次いで、高円宮憲仁親王妃久子殿下から名誉総裁表彰盾及び名誉総裁章が授与されました。

高円宮憲仁親王妃久子殿下からおことばを賜った後、来賓の国土交通副大臣及び金刀比羅宮宮司から祝辞をいただきました。



来賓として招かれた、左から加納国土交通副大臣、岩崎海上保安庁長官、琴陵金刀比羅宮宮司



表彰を受ける多度津救難所白方支所の鎗内所長



香川県水難救済会多度津救難所白方支所



総合病院沖縄赤十字病院



加納国土交通副大臣より祝辞をいただきました



福岡県水難救済会前会長伊豆氏

■平成21年度名誉総裁表彰受賞者

項目	団体・個人名	表彰理由
海難救助功勞 (団体)	香川県水難救済会 多度津救難所白方支所	平成20年9月21日、香川県仲多度郡多度津町の沖合いで、天候急変に伴う突風により、プレジャーボート等が多数転覆。強風高波の危険な状況のもと、迅速かつ的確な救助活動で4名を救出し、転覆船2隻も曳航救助した。
洋上救急功勞 (団体)	総合病院沖縄赤十字病院	長期間にわたり洋上救急事業の協力医療機関として積極的に協力し、これまで51件の洋上救急事案に対し、95名の医師・看護師を出勤させ、船員等の人命救助と福祉の向上に大きく貢献した。
事業功勞 (個人)	社団法人福岡県水難救済会前会長 伊豆善也氏	昭和52年に日本水難救済会福岡県支部長就任以来、31年余にわたり、福岡県水難救済会の法人化を図るなど、同会の育成及び発展に大きく貢献。また、洋上救急センター北部九州地方支部長としても同事業に大きく貢献した。

平成21年度 海上保安庁観閲式及び総合訓練

麻生総理が見守る中、54回目の観閲式が開催

海上保安庁が創設された昭和24年以来、54回目となる「海上保安庁観閲式及び総合訓練」が、平成21年4月26日、東京湾海上にて実施されました。本来は、25日・26日の2日間にわたって行われる予定でしたが、悪天候のため、1日短縮して実施されました。

全国から巡視船艇40隻、航空機19機が参加。関係機関船艇のパレードを始め、ヘリコプター編隊飛行訓練、人命救助や海上防災訓練等が行われました。

なお、この日は、特別観閲官として麻生内閣総理大臣が招かれており、歴代総理としては、初めて観閲式に出席しました。

また、船上ではミス日本「海の日」の池永由宇さんを中心に青い羽根募金活動が行われました。



麻生総理に青い羽根を着用いただきました



風浪の中を航走する受閲船体(1000トン型巡視船)



巡視艇とヘリコプターの連携訓練



高速船隊運動

平成20年度の総合訓練には、東京救難所所属の救助船「曙光」が参加しました。



テロ対策訓練



東京救難所所属 救助船「曙光」



不審船捕捉訓練



募金をされた方々とミス日本「海の日」



音楽隊による演奏の司会をするミス日本「海の日」

- 01 Shot of the MRJ マリンレスキューの情景
平成 21 年度 名誉総裁表彰式典／海上保安庁観閲式及び総合訓練
- 06 特集 マリンレスキュー紀行
海の安全にかける男たちの群像
伊豆地区水難救済会 稲取救難所
- 12 全国地方救難所のお膝元訪問
ニッポン港グルメ食遊記【静岡県賀茂郡東伊豆町／稲取漁港】
- 13 「青い羽根募金 2009」活動レポート
平成 21 年度 青い羽根募金強調運動／青い羽根募金支援自動販売機の設置状況／
平成 20 年度 青い羽根募金の使用実績
- 17 水難救済思想の普及活動レポート
- 20 キッズのためのマリンレスキュー講座
- 21 MRJ 歴史探訪シリーズ
ボランティア精神の源を訪ねて
「大日本帝国水難救済会の開会式」
- 23 レスキューグッズの最前線
マリンレスキュー MONO ギャラリー
- 25 レスキューステーション NEWS
救難所だより
新設救難所の紹介／海難救助訓練
- 29 レスキューレポート 水難救助活動報告
海難救助／洋上救急
- 35 MRJ 互助会通信
- 37 MRJ フォーラム 読者の広場
- 38 MRJ からのお知らせ

表紙：伊豆地区水難救済会稲取救難所副所長の鈴木精（くわし）さん。稲取漁港にて撮影。

海の安全にかける 男たちの群像

伊豆地区水難救済会 稲取救難所



稲取漁港にて自らの船に乗り込み話をきかせてくれた伊豆地区水難救済会稲取水難所副所長の鈴木精（くわし）さん。

「海を愛し、尊ぶ心」。
水難救済に携わってきた人々に脈々と受け継がれてきた奉仕の精神。
自らの危険を顧みず、人命救助に取り組むのは何故なのか。
海の安全を守る最前線に身を置く人々の素顔を追って――。

取材協力：伊豆漁業協同組合稲取支所、東伊豆町

鎌倉時代から栄える漁港が 稲取地区の発展を支えてきた

かつて、源頼朝は蛸ヶ小島（現韮山町）に流された折、稲取の八幡神社に参拝したと伝えられている。その後頼朝が鎌倉幕府を開いてからは鎌倉と東伊豆の往来も盛んになり、海上交通の発展とともに、稲取を含む伊豆の港は中継地点として栄えるようになったという。
(出典：東伊豆町ホームページ)

伊豆半島東海岸の中央に位置する静岡県賀茂郡東伊豆町。稲取地区はその南側、相模灘に面しており、温暖な気候に加え、天気の良い日には遠く伊豆

大島を望む風光明媚な景観に恵まれた場所として知られている。

また、このエリアは硫酸塩泉を主とした泉質と情緒豊かな温泉郷としても名高く、夏には天下の奇祭といわれる「どんつく祭」、花火大会のイベントとして行われる「潮風よさこい」には多くの観光客が詰め掛けるという。

しかし、人口 7,000 人弱のこの静かな地域「稲取」の名を知らしめているのは、やはり海の幸だ。伊勢海老、アワビ、アジ、サバ、そして日本有数の漁獲高を誇り、その味も評価の高い金目鯛。温泉郷とともにこの地域の中核をなすのは稲取漁港だと言えるだろう。



海が見える露天風呂もある稲取温泉。





早朝の稲取漁港。船も人も少ない静かで穏やかな空間だった。

小さな漁港に受け継がれてきた海難救助の精神

稲取漁港は、常時60隻ほどの漁船が停泊している漁港で、3本の堤防や小突堤で構成された港内ではメジナ、クロダイ、シロギス、ハゼ、マゴチ、ヒラメ、アオリイカと豊富な種類の魚が釣れるという。また、また毎週土曜・日曜・祝日には港の朝市があり、鮮魚だけではなく、野菜・果物など約20店舗が出店しており、県外からやってくる人も少なくない。

その漁港を取り仕切る伊豆漁業協同組合稲取支所は、港の海面からわずか数十メートルの隣接した場所にある。稲取支所に所属する船は約60隻、組合員は約100名。

この稲取支所を救助拠点とする伊豆地区水難救済会稲取救難所は、つい先



漁協組合に隣接する市場。稲取漁港で水揚げされた魚介類はここに集まってくる。

日、2つの団体から表彰されている。ひとつは海上保安庁下田海上保安部、そして社団法人日本水難救済会。いずれも海難救助に大きく貢献した功績が評価されてのものだった。

稲取救難所は、平成3年に発足して現在に至るわけだが、水難救助活動はそれ以前から行ってきた。

「昔から海で事故があったと聞けば、当たり前のように駆けつけていたよ。その伝統は江戸時代から続いているんじゃないかな」と語るのは、稲取救難所の副所長を務める鈴木精（くわし）さん。



伊豆地区水難救済会稲取救難所（伊豆漁業協同組合稲取支所）

鈴木さんによると、海難救助活動の他に、子供を対象にした体験教室を主催したり、自主的に特別な訓練は行わないが、県や町の防災訓練には参加しているという。



かつて、船が流されないようにつなぎとめておくために使われた「もやい岩」。東伊豆町文化財として稲取漁港の手前に設置されている。



漁協と町が協力して行う「磯の体験学習」には、地元の小中学生あわせて32名が集まった。

海の男たちが体験学習を通じて子供たちに伝えたいこと

取材班が訪問したその日は、稲取支所が主催している地元の小学生を対象にした「磯の体験学習」が行われるというので見学させていただいた。

開催場所は稲取温泉郷前の海岸。砂浜はなく大きな岩がひしめく岩場の磯。そこで地元の小中学生を集めて、様々な体験を通して海に親んでもらおうというのが目的だ。なお、この教室には東伊豆町が様々な面でサポートしており、毎年、大潮の8月の夏休み期間中に実施しているという。

東伊豆町町長の大田長八さんはこう語る。

「東伊豆町は海の町なのに、子供たちが海から離れてしまうのは寂しい。郷土の財産である海に少しでも親しんでほしい」

東伊豆町役場の鈴木伸和さんが続ける。

「漁業権や安全面の関係で地元の子供たちは気軽に海に入ることができません。そこで、2年前から始めたのがこ



東伊豆町役場 鈴木伸和さん

の体験学習です。豊富な経験とさまざまなノウハウを持つ稲取支所さんが主催で、町が資金や人員など全面的なバックアップを行っています。体験学習のメニューは、座学と実地体験に分けられている。

座学では、稲取救難所の佐藤紀男さんによる地元稲取の海の話や「この辺の海でなぜ魚を獲ってはいけないのか?」といった漁



稲取救難所の所長を務める佐藤紀男さん

業権の話から始まり、静岡県水産技術研究所伊豆分場の職員を招いてのアワビの生態についての解説、さらに下田海上保安部の職員による、海上保安庁の仕事や救命胴衣の使い方、溺れた時の対処法など、海に関する様々な知識が子供たちに伝えられた。

その後は場所を屋外に移して実地体験の時間。先に説明を受けたアワビの稚貝の放流を行う。子供たちは磯に降りて、思い思いの岩場の下に稚貝を楽しそうにくっつけていく。

その後は、本来なら海に入って素潜りを行う予定だったが、あいにく当日の海は波が大きいため危険と判断、急遽、浅瀬で救命胴衣を使った救助訓練に変更された（子供たちは非常に残念そうだったが…）。

しかし、この体験学習には学習以外にも大きな楽しみがあった。それは昼食時に炊き出しとして振舞われる地元産の海産物を使った料理。この日は、稲取の名産品である金目鯛の味噌汁に、今が旬のサザエの壺焼だ。子供たちが美味しく食べる姿を見つめる大人たちの目は限りなく優しい。



身近な道具を使って溺れた人の救助法について説明する下田海上保安部の石川専門官と福永さん。



講師として招かれた静岡県水産技術研究所伊豆分場の職員がパネルを使いながらアワビの生態について解説していく。



子供たちが岩場の陰にアワビの稚貝を放流していく。

釣り人が陥った思わぬ事故 海の怖さを見過ごすな

「子供たちには興味を持ってほしいから海の魅力を教えてあげたい。でもそれと同時に、海の怖さを子供たち伝えていくのも俺たちのような大人の役目なんだよ。今日の体験学習での素潜りを中止した意味を、子供たちが分かってくればいいんだけどね」

体験学習が終了し、子供たちが帰途につくと、稲取救難所の鈴木さんがぼつぼつと語りだした。

「今年に入ってからすでに2件の救助に関わった。どちらも助かったけど、天気が悪かったり、波が高かったり、海に出ると危険なことが分かっているのに釣りに出ているんだ」

その事故とは、以下のようなものだった。



救命胴衣を着用した浅瀬での救助体験

ひとつ目は、波が高い日に岩場で釣りをしていた人が波にさらわれ、海に転落。幸い救命胴衣をつけていたため、沈むことはなかったが、入り組んだ岩場のため、救助は困難を極めたという。

もうひとつは、釣りに出港したプレジャーボートが船尾排水口からの浸水が増大して転覆。これを陸側から目撃した釣り人が110番通報し、警察からの出動要請を受けた鈴木さんが他の救難所員に連絡、所員3名が救助船で現場に急行し、転覆船にしがみついていた3名を救助した。一方、他の救助船2隻も間もなく現場に到着し、協力して転覆した船体を曳航、稲取漁港に搬送したという。遭難者は待機していた救急隊から怪我のないことの確認を受け、無事だった。

「どっちも海が荒れているのに……」



吹き出しで子供たちに振舞うため、町役場の職員が汗だくになりながらつくる金目鯛の味噌汁。

海を舐めているとしか思えないよ」と鈴木さんは嘆く。たとえ、海が危険な状況で釣りをしている人を見かけても、鈴木さんたちには「やめる」とは言えない。そうした権限がないからだ。

「そういった状況にどうやって対応するか。管理をどうするかを含めて話し合いが必要だろうね」（鈴木さん）

救難所と海上保安部の連携に 必要なのはコミュニケーション

「救難所の存在があるからこそ、海での救助活動がスムーズに行われているのは間違いありません。我々は下田を拠点としていますが、例えばここ稲取で海難事故が起きた場合、通報を受けてから現場へ到着するまでにどうしても3、40分はかかってしまう。その点



金目鯛の味噌汁は、子供・大人を問わず大好評だった。



取材当日、稲取の海は波が高かったにもかかわらず、それでも岸壁まで出て釣りをしようとする人を実際に見かけた。

でもフットワークの軽い救難所の皆さんの存在は非常に有り難いです」と語るのは、下田海上保安部の石川忠夫専門官。

救難所の存在を高く評価する表われとして、稲取救難所は、この8月、下田海上保安部から救助活動の功績に対して表彰を受けている。

「表彰の要因は、所員の方々の連携の素晴らしさと、迅速な対応ですね。組織ありきではない活動は高く評価されて然るべきだと思います。稲取救難所の皆さんは経験が豊富なので、救助活動も皆さんだけで完結できますし、かなりの部分をお任せしています」（石川専門官）

海上保安部と救難所。これまでもシステムとしては連携してやってきたとはいえ、本当の意味で協力体制が出来てきたことを実感するようになったのは、つい最近のことだという。

「これまでは対話がほとんど無かった。連携しているとはいえ、我々からするとやっぱり『お上』だからね（笑）。怖いという気持ちがどこかにあった。でも今はこうやって一緒に話すことが出来る」（鈴木さん）

「救助活動だけではなく、体験教室など稲取救難所の皆さんはいろいろ活動しておられます。これまで我々はそういったことに気がつきませんでした。これからもっと協力していくべきだと思います」（石川専門官）

とはいえ、お互いにコミュニケーションを取り始めたばかり。二人とも「まだまだこれからですよ」と声を揃える。



8月、稲取救難所は、今年に入ってから2件の海難救助に貢献したその功績に対して、日本水難救済会会長から表彰を受けている。写真は表彰状授与のひとコマ。



稲取漁港には普段およそ60隻の漁船が停泊しているが、海難事故の際には出動できる船が救助船となる。

仲間同士の強い信頼関係が
救助活動成功につながる

稲取救難所の面々がこうした救助活動が迅速に行えるのは、ネットワークがしっかりしているからに他ならない。現場に出られる人間がいれば、声をかければ必ず誰かが現場に出ることができるのだ。

「ウチは横のつながりが特に強いと思う。ほとんどが地元で生まれ育って漁師になった人間が多いからね。みんな経験は豊富だし、いつ、誰が救助活動の現場に行っても同じ対応ができる。それはウチの特長だろうね」と、鈴木さんは胸を張る。

救難所の同僚がそれに続く。「仲間が海でトラブルに遭ったら、間違いない全員が全てを投げ打って現場に急行するでしょうね」(稲取救難所・中山裕仁さん)



稲取救難所 前田民雄さん

「俺たちは当たり前のことをしているだけ。海で困っている人がいたら仲間でもそうでなくとも助けるよ。仲間もみんなそう考えていると思う。これからも当たり前のことを続けていってほしいよ」

最後にそう言って、鈴木さんは照れくさそうに笑った。



下田海上保安部 石川忠夫専門官



稲取救難所 中山裕仁さん

「自分もそう思う。それだけ仲間意識が強いんです」(同・前田さん)
訥々と語る彼らの口調には、派手さや奮りは全く感じられない。しかし、その一方で、経験に裏打ちされた自信とともに、海の男としての矜持のようなものを感じたのは、気のせいではないだろう。



稲取漁港の全景。

全国
地方救難所の
お膝元訪問

ニッポン 港グルメ食遊記

日本全国をカバーしている救難所の多くには港がありますが、その港の数だけ美味しいものがあるのではないのでしょうか。そこにしかない、おらが自慢のご当地グルメを求めて…。今回は伊豆地区水難救済会稲取救難所のお膝元である稲取漁港の「港グルメ」を紹介します。

静岡県賀茂郡東伊豆町稲取「稲取漁港」

金目鯛

東伊豆町のグルメといえば、新鮮な魚介類ですが、稲取漁港と言えばやはり「金目鯛」です。

『キンメダイ目キンメダイ科の深海魚である金目鯛は、全長約40センチ。日本では釧路沖以南、大陸棚や海山周辺の水深200~600mの深海に生息している。全身が朱または紅色。目が大きくて金色に輝いているのが特徴』(出典:東伊豆町観光協会ホームページ)

このように金目鯛は、日本のあちこちで獲れる魚です。ところが、地元の方々によると「稲取の金目鯛はほかとはちょっと違う」とのこと。

事実、稲取漁港で水揚げされた金目鯛は、東京築地市場においては「稲取金目」と呼ばれ、事実、別格の「ブランド品」として高値で取引されています。

神奈川県水産総合研究所の報告によると、稲取沖の金目鯛は、他の地域で獲れる金目鯛に比べて筋肉や皮に含まれる脂肪量が高いとのこと。そしてその違いは、漁場によるものなのだそう。

お刺身、煮付け、そしてしゃぶしゃぶ。お好みに合わせて様々な食べ方で楽しめます。我ら取材班は、金目鯛のお味噌汁をいただきましたが、やっぱり脂が乗っていて「美味しい」。

稲取を訪ねることがあれば、みなさんも一度試してみたいはいかがでしょうか？



金目鯛漁のための
仕掛けづくり



脂の乗った豊かな
味わいが自慢です。



シンプルな
味噌汁だけど
美味しい。



地元産サザエは
実が大きく
ボリューム満点。

全国 54,000 人のボランティア活動を支えます

「青い羽根募金 2009」活動レポート

効果的、且つ、安全な海難救助活動を行うためには、常日頃から組織的な訓練を行うとともに、ライフジャケット、ロープ等の救助資機材の整備や救助船の燃料等も必要となります。これらに必要な資金は、全国的な募金活動等によって集められています。このため、日本水難救済会では、海上保安庁のご指導により昭和 25 年から「青い羽根募金」を開始し、周年で国民の皆様にご寄付をお願いしています。



青い羽根を着けた麻生内閣総理大臣を囲み記念撮影。左が相原日本水難救済会会長、右はミス日本「海の日」の池永由宇さん。

平成 21 年度青い羽根募金強調運動

日本水難救済会では、周年、青い羽根募金活動を展開していますが、7月～8月の2ヶ月間は、特に「青い羽根募金強調運動期間」と銘打って41ヶ所の都道府県地方水難救済会と協力して全国的な運動を展開しています。

6月29日には、青い羽根募金協調運動の一環として、2009年度ミス日本「海の日」の池永由宇さんが、麻生内閣総理大臣、金子国土交通大臣を表敬訪問。青い羽根をつけていただき、募金運動への協力をお願いしました。



金子国土交通大臣表敬訪問のひとつ。左から、坂本日本水難救済会理事長、相原会長、金子国土交通大臣、池永由宇さん、鈴木海上保安庁次長（現長官）。

募金活動にご協力いただいた全国各地のみなさん



社団法人琉球水難救済会のみなさん

7月25日に開催された「名護市夏祭り」の「巡視船体験航海」会場において、名護海上保安署の協力を得て募金活動を実施しました。また、同時に海難救助、訓練、ボランティア教室のパネル展示を行い、海での安全思想の普及活動を行いました。



東京海洋大学海王寮のみなさん

東京海洋大学海王寮寮生の有志45名が、7月4日～5日の2日間にわたり、JR渋谷駅及び東京メトロ門前仲町駅で募金活動を実施しました。



千代田区海洋少年団のみなさん

「海の日」の7月20日、千代田区神田神保町の交差点において、団員17名・指導者12名の計29名で、募金活動を実施しました。用意していた「青い羽根」が全てなくなるほどのご賛同をいただきました。



ボーイスカウト静岡県連盟静岡第2団のみなさん

6月28日、ボーイスカウトの少年少女が静岡駅構内の地下通路で募金活動を実施しました。



大分海洋少年団のみなさん

「海の日」の7月20日、「大分海の日協賛会」の行事の一環として明野アクロスホールで募金活動を実施しました。



沼津海洋少年団のみなさん

5月23日、毎年恒例で催される「沼津海人祭」にて、沼津港の海上で募金活動を実施しました。

青い羽根募金支援自動販売機の設置状況

日本水難救済会では、売上金の一部が青い羽根募金に還元される「青い羽根募金支援自動販売機」の設置を全国展開してきました。平成19年8月31日、NPO法人長崎県水難救済会が、第1号機を設置して以来、全国の水難救済会の協力もあり、その設置台数は着実に増加しています。平成21年度中には250台を目標として設置を推進しており、今年8月末現在の設置台数は237台と今年度に入ってからすでに104台の設置が進んでいます。



愛知県水難救済会

蒲郡海上保安署からの提言、さらにコカ・コーラ セントラル ジャパン株式会社および株式会社新来島豊橋造船の協力により、同造船所内への設置が実現の運びとなり、平成21年7月31日にお披露目式が行われました。



岡山県水難救済会

平成20年12月16日、倉敷市の三菱自動車株式会社水島製作所で支援型自動販売機の設置式が行われました。今後4台まで増やす予定。また、平成21年1月27日には、玉野市の三井造船株式会社玉野事業所に支援型自動販売機としては全国初となる紙コップ式自動販売機が2台設置されました。



能登水難救済会

七尾海上保安部の協力を得て、平成21年4月17日、和倉温泉の「湯っ足パーク」構内において、関係者30名が出席して、石川県初となる支援自動販売機第1号機の設置除幕式が行われました。



香川県水難救済会

平成21年7月13日、ジャンボフェリー株式会社高松支店において、高松市内第1号機の設置除幕式が実施されました。除幕式終了後、関係者により飲料水第1号が購入されました。



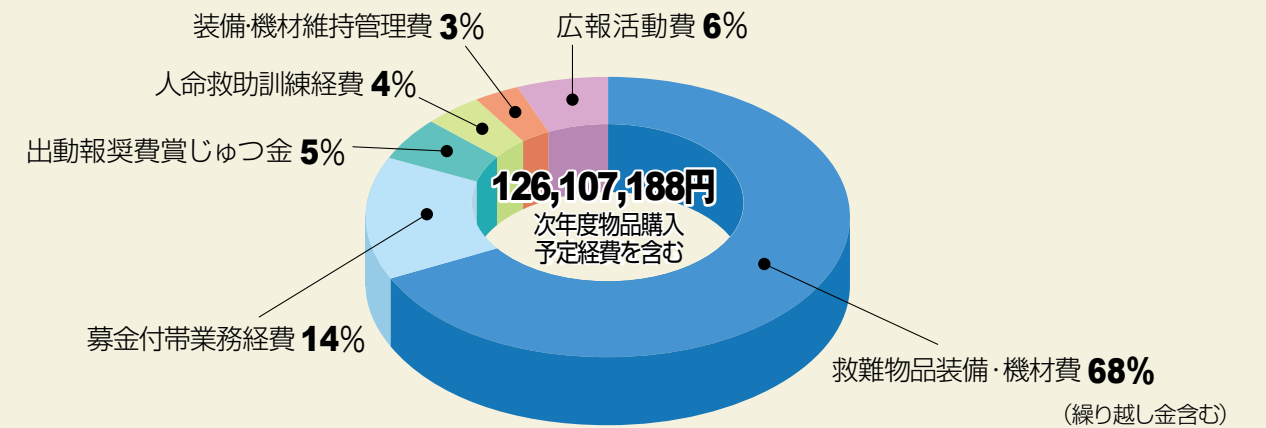
三重県水難救済会

コカ・コーラ セントラル ジャパン株式会社及び株式会社御木本真珠島の協力により、伊勢・志摩地区を代表する観光スポット「ミキモト真珠島」に設置の運びとなり、平成21年1月25日、海女さんによる設置セレモニーが行われました。

平成20年度 青い羽根募金の使用実績

日本水難救済会及び地方水難救済会は、平成20年度も、海上保安庁、防衛省等中央省庁、都道府県、企業、団体からご支援をいただくとともに海洋少年団等からも募金活動にご協力をいただき、募金総額は前年度より6,108,782円増となる74,895,471円となりました。

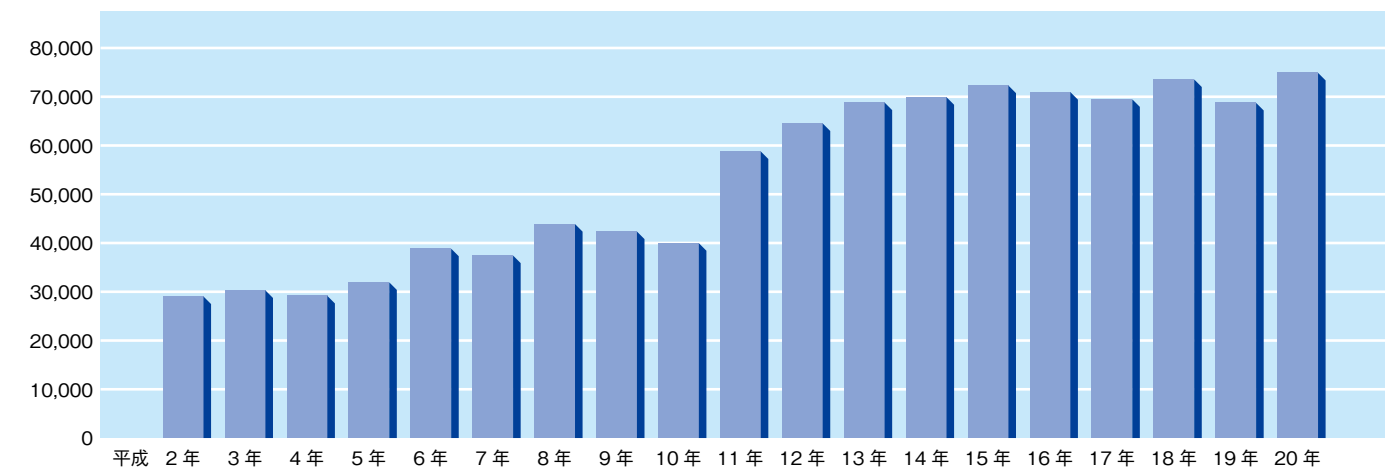
また、日本水難救済会の青い羽根募金口座に各企業、防衛省の陸上、海上及び航空自衛隊各部隊、個人の方々及び東京海洋大学学生寮寮生、小、中学校及び高校生の皆さんの募金活動による多額の寄付がありました。募金をいただいた皆様にお礼申し上げます。



■救難用物品、装備・機材



■募金実績の推移（平成2年～20年度） 単位：千円



平成21年度「青い羽根募金」強調運動期間が始まった7月、都営地下鉄、東京地下鉄株式会社（東京メトロ）、株式会社ゆりかもめ、江ノ島電鉄株式会社、小田急電鉄株式会社、京浜急行電鉄株式会社、相模鉄道株式会社、及び成田国際空港ビルディング株式会社の協力を得まして駅構内並び空港ロビー等に「城島選手モデル」の募金啓発ポスターを掲示していただきました。ご協力ありがとうございました。

ボランティアスピリット継承のために 水難救済思想の普及活動レポート

日本水難救済会では、青少年を対象に海事思想や水難救済ボランティア思想を啓蒙することにより、将来の後継者になってもらえるよう、海上保安官やライフセーバーの方々に講師を招いて、水難救済ボランティア教室を全国で開催しています。



平成21年度 若者の水難救済 ボランティア教室

「若者の水難救済ボランティア教室」は、平成13年度から始まった事業で、小中学生や高校生等の若者に海の知識を深めてもらうとともに海に親しむ機会を与え、実地体験を通じた救命技術の習得を目的としています。さらに、海での安全意識の向上を図るとともに水難救済ボランティア思想を啓蒙しています。今年度も国土交通省、海上保安庁、消防庁から後援を受けて各地で開催された模様を紹介いたします。



■千葉県水難救済会

7月30日、千葉県銚子市所在飯沼小学校にて、同校の児童172名（1～4年生）を対象とした「水難救済ボランティア教室」が開催されました。銚子海上保安部等の指導による教室は、着衣状態で泳ぐことの難しさ、身近なもの（ペットボトル、ランドセル）が水に浮くことを実際に体験し、先ずは海に限らず水に落ちることを予防すること、次に落ちたときの対処方法について学びました。また、生徒たちは、子供用ライフジャケットを使用して水に浮くことを体感し、ライフジャケットの有効性を学びました。



■和歌山県水難救済会

2月～3月にかけて田辺市内10ヶ所の幼稚園や保育園で教室を開催しました。「若者の水難救済ボランティア教室」の存在を新聞で知った園から依頼を受けての実施でした。田辺海上保安部の海上保安官が講師となり、海浜事故防止の話、身近な物を利用した溺者救助法、救命胴衣の着用などについて説明した上で、園児達が家に帰ったら家族の方にも救命胴衣の着用のご話をしようをお願いしました。



■長崎県水難救済会

8月1日、長崎港とその周辺海域において、「若年層に対する事故防止及び体験クルーズ」が開催されました。長崎海上保安部の協力のもと、長崎市内の小学生61名が参加し、事故防止指導、AED取扱い訓練に取り組みました。さらに巡視船「でじま」による体験クルーズを楽しみました。



レスキューチューブによる救助法講習
(4月25日開催)



皆泳による救助体験(8月15日開催)

■琉球水難救済会

4月25日、慶良間諸島渡嘉敷村の国立沖縄青少年交流の家で「若者の水難救済ボランティア教室」を開催しました。これまで小・中学生や高校生を対象に教室を開催してきましたが、初めての試みとして、国立沖縄青少年交流の家で教室を開催しました。受講者は「子供の野外活動指導者養成セミナー」に参加した高校生5名と大学生30名。安全講話、レスキューチューブによる救助法、心肺蘇生法、AEDの取扱訓練に全員が真剣に取り組み、活発に質問が出るなど充実した体験教室となりました。

8月15日には、読谷村立喜小小学校において、小学校6年生を対象に「若者の水難救済ボランティア教室及び皆泳教室」を開催しました。第十一管区救難課及びライフセービング協会沖縄支部の協力を得て、海での安全知識、海洋危険生物、心肺蘇生法等を学び、プールでは、皆泳による救助体験などを行いました。ペットボトル、救命胴衣、着衣等を活用した水中での体験のほか泳ぎながら救助活動を行う体験では、片手にペットボトルを握りながら力強く泳ぎ、一生懸命救助活動に取り組んでいました。



■兵庫県水難救済会

7月15日、神戸市立なごさ小学校にて、小学校4年生約60名、教職員・保護者約20名が参加し、ボランティア教室が開催されました。神戸海上保安部、兵庫県スキューバダイビング安全対策協議会の協力のもと、児童たちは自己救命確保、救命胴衣着用体験、溺者救助法、救急法などについて指導を受けました。

楽しく安全に海とつきあうために

キッズのためのマリンレスキュー講座

近年は子供たちが海に慣れ親しんでもらうためのイベントが各地で行われています。子供たちが水辺で楽しく遊ぶ姿は、見ているだけで楽しい気分になってくるのですが、その一方で、水辺には常に危険が潜んでおり、毎年水難事故が起きているのも事実です。ここでは水辺での安全性を確保するためのちょっとした知識を紹介いたします。

身を守るための最低限の知識を身につけよう

水難事故で命を落とす人を少しでも減らしたいという願いから、神戸海上保安部では、9年ほど前から自己救命確保キャンペーンとして、溺れた人を救助するなどのデモンストレーションを行ってきました。

それと同時に、夏の季節には子供の事故が多数起きているため、水難救済会とともに「若者の水難救済ボランティア教室」を開催し、とりわけ子供たちを対象として、自らの安全を確保することについて指導を始めました。

教室の内容については、大まかに、自分が着衣のまま誤って水に落ちたときの対処方法、水に落ちた人の救助方法の2つに分けられます。



クーラーボックスを使い浮力を確保する訓練。ペットボトルなども代用できる。

身近な物を使って命を守ろう

自分が水に落ちたときは、身に付けている衣服やランドセルなどを使って浮力を確保する方法や、水に落ちた人を救助するときには、長い棒やペットボトルなど身近にあるものを使って救助する方法などを紹介して、実際に体験してもらっています。

元気盛りの子供たちですが、みんな真剣に取り組んでおり、自分なりのアイデアを発言する子もいます。子供たちは発想が豊かで、遊び感覚で視野を広げているようです。

とはいえ、子供たちだけでの水辺での遊びはやはり危険です。大人がしっかりと監視できる環境で、何かあればすぐに大人を呼びに行くことが大事です。

昨年、神戸市の都賀川増水事故で多数の人命が失われるという悲しい出来事がありましたが、その際、救助された子供の中の一人がランドセルを使って浮力を確保していた、という新聞報道がありました。

さらに、太平洋側での津波災害においても身近なもので浮力を確保することが生死を分けるとの研究もあり、今後もますます教室開催の依頼が増えると思われます。

神戸海上保安部としても、教室実施に関して分かりやすい資料を作成するなどの工夫をこらして、できる限り要望に応えつつ、水難事故の減少を目指したいと考えています。



溺れた人を助けるときは、直接手を伸ばすのではなく、必ず棒やロープなどを使うことが大切。



溺れた人を水から引き上げる時の訓練。



講師
神戸海上保安部 救難係
西馬 嘉秀さん

VOICE ボランティア参加者の声

ボランティア教室に参加した児童による感想やコメントを紹介します。

「学習した事をもしもの時に生かしたい」

(福岡県/小学6年生)

着衣泳で、上向きに浮く練習はむずかしかったです。何回かしてペットボトルなしで出来ました。レスキュー隊の人に来てもらって、本格的でとてもいい体験になったと思います。

服を着ていると水着の時と違って重いし、ジーンズとかは特に足にくっついて動きにくかったです。もし、海や川などでおぼれてしまったら、無理に泳ごうとせず、浮いていることが大事だと思いました。服を着たままで、泳ぐのがとても大変でした。だから、おぼれた時は泳がずに浮くだけということをおぼれないようにしたいです。

私は、あんなに身近にあるペットボトルがすごく浮くことを知りませんでした。ペットボトルがあると簡単に浮くことができるし、じゃまだと思ってたくつが意外と浮くことを知りました。学習した事をもしもの時に生かせたらいいと思います。

「今日、教わったことは一生わすれない」

(福岡県/小学4年生)

着衣泳を指どうしてくれたみなさんへ今日は、わざわざ遠い所から来て下さってありがとうございました。ぼくは、水着を着ている時以外、水がきらいで、こわくて、しずんでしまいそうだな、と思っていたけど、せうきやうき物を使って、きゅうじょが来るまでのうき方などを知って水がこわくなくなりました。指どうしてくれ

た人たちもいねいに教えてくださって、本当によくわかりました。

川で遊ぶときや、今度から始まる夏休みのときも、プールを使ったりするから、今日、教わったことすべて一生わすれないと思います。本当にありがとうございました。

「あわてないで、あせらないで」

(千葉県/小学5年生)

プールに入った時に、足がすごく急におもくなってびっくりしました。

ペットボトルを使ってやってみると、思っていた以上にかんたんにうかんだし、ランドセルをつかってやってみると、こんなかんたんな物でも、うかべるんだなあーと思いました。

あわてないで、あせらないでやらないと、しずんでいってしまう事がわかりとても勉強になったと思いました。

「命を救う勉強をして」

(千葉県/小学生)

命を救う勉強をして、特に心に残っている事がふたつあります。

ひとつめは、海上保安庁の方たちです。海上保安庁はテレビでしか見たことがないので、実際に水の中にいるのを見てやっぱりすごいと思いました。着衣水泳もわかりやすく、どうやったらうまく浮けるか教えてくれました。

ふたつめは、AEDを使った命を救う方法です。私は、難しそうだなと思いつつ、海上保安庁の方たちの説明を聞いていたけど、実際にやってみたら、意外と私にもで

きるんだなと思いました。思っていたよりもずっとかんたんに出来て、特に難しそうだと思っていたAEDは、流れてくる音声通りにやれば出来るんだなと思いました。

これからは、命を救う勉強をしてわかった事、やった事を生かして、困っている人がいたら役に立てればいいなと思いました。

「助けられる命は助ける」

(千葉県/小学6年生)

水の事故で人が助けられなかったニュースをよく見ます。川や海での転落事故など、いろいろあります。その他、お店で急に倒れるなどした時の救命措置のやりかたを習いました。

救命措置を教えた下さったのは、海上保安庁の人達でした。救命措置は、人工呼吸と心臓マッサージ、AEDのやり方を教えてくれました。人工呼吸は、倒れている人の意識はあるか、呼吸をしているかを確認して、呼吸をしていなかったらあごを上をちょっと上げて、鼻をつまんで息を入れてあげる。それを2回して、心臓が止まっていれば心臓マッサージをする。AEDがあれば、指示通りにやる。それをくりかえしやっていると助かる確率が大きくなる。そういう事をいっぱい学びました。

私は、人が倒れたりしたら、知らないふりをしないで、助けを手伝ったり、すすんでやりたいと思います。助けられる命は助ける。その事を心にずっと入れておきたいと思っています。

ボランテイア精神の源を訪ねて
大日本帝国水難救済会の開会式

明治22年に大日本帝国水難救済会として創立してから今年で120周年を迎えるにあたり、この記念すべき契機に日本における水難救済の歴史を様々な角度から検証してまいります。

◆はじめに◆

明治期に金刀比羅宮に仕えた松岡調(まつおか・みつぎ)が記した『年々日記 明治二十二年 百四』の十一月三日の条に、大日本帝国水難救済会の開会式次第が貼付されています。

本会開会式は明治22年(1889)11月3日、明治天皇の皇子明宮嘉仁(はるのみや・よしひと)親王(後の大正天皇)が皇太子に冊立(さくりつ)【※筆者注…皇太子に正式に定められること】された佳日を期して挙行されました。

◆式次第◆

式次第によると、開会式は以下のように進りました。

- ①開会奏上祭
- ②開会式
- ③遭難船救助訓練

まず①奏上祭は、「海の護り神」と篤く崇敬される金刀比羅大神さまに開会式挙行の旨をご報告するお祭りです。午前8時より金刀比羅宮御本宮で齋行され、本会開会式に先立ち予め会長に推されて開会式に先立ち予備会長となり、官公庁関係者、本会正(会)員、多度津・與(与)島の見張員、水夫などの多数の方が参列されました。

祝詞奏上後に「次旗号授与式ヲ行フ」とありますが、これは御神体に近い御本宮中殿(幣殿)にお供えされていた旗号(会旗)を見張人と組合長の方々にお渡しする儀式です。

次に、②開会式は奏上祭終了後、関係者一同が表書院七賢の間・虎の間・鶴の間・富士の間などを開放して特設された式場に移動して挙行されました。

式典ではまず、琴陵宥常会長が鍋島直大(なおひろ)副総裁の祝詞を代読し、次に林薫(ただす)香川県知事の祝辞を吉田豊文書記官が代読。金刀比羅宮禰宜で本会会員の松岡調が会員を代表して答辞を述べました。鍋島副総裁の祝詞は本会発足に至るまでの経緯が述べられ、主唱者琴陵宥常宮司の敬神愛国の誠意、賛同者(会員)の慈善精神を称え、本会発足を祝う内容でした。

猶、開会式は副総裁祝詞、来賓祝辞、会員代表答辞のみという極めて簡素な式典であり、式典終了後、式場を祝宴会場に模様替えしての祝宴となりました。

『年々日記 百四』には「(祝宴会場内) すき間も無く肩と肩とをすり合せて飲食するさまおとろおとろしく、此社務所にしても未曾有の事なん、折詰をくり出す所に、酒のかん【※筆者



七賢の間

注…爛】する場などを折々のそき見に、とよめき渡れるハさる事なり」とあり、その慌しさは前代未聞であったことが分かります。当日は500人強に及ぶ大勢の方々が来場されました。

最後に③遭難船救助訓練については、式典並びに祝宴が一段落した午後2時過ぎ、一同は同年5月23日に開通した讃岐鉄道の列車に乗って多度津に設置された救難所に向かい、初の遭難船救助訓練を実施致しました。次第には

「次一同多度津ニ出向ス」とあります。

救助訓練の様子は『年々日記 百四』に「十丁ハかり沖に百石積ほどの船一艘見ゆるが、大浪に打れたるさまなるが、紅藍黄などにてしるしかきたる所謂信号をあけて救助を乞へるに、見張等よりも旗をあけて是に應じたと見るや、号角を吹きならして水夫をと、のへ、即て端舟(たんしゅう)【筆者注…はしけ】五艘ハかりに六七人の水夫の乗りて漕(こ)きいたせり、其早き

事矢を射るか如し、直に遭難船にこきよせて積たる荷物、俵やうの物をつみかへて陸地へ運ハんとする、此時あとより新調の救助船二艘こき来りて、遭難人の帆柱にのほり居るを助けのせ、又既に溺死(できし)せんと海上にた、よへる者にハ、浮輪をあたへやりて引きあげ、直にけつとうにて躰をつみなどとして、陸地へ向けて漕き行きたり」とあり、本会初の救助訓練はさながら本物の遭難船を相手にしているかのような緊迫感がありました。

◆おわりに◆

本稿では日本水難救済会の前身、大日本帝国水難救済会の開会式を紹介させて頂きました。在りし日の水難救済会に思いを馳せて戴ければ幸いです。

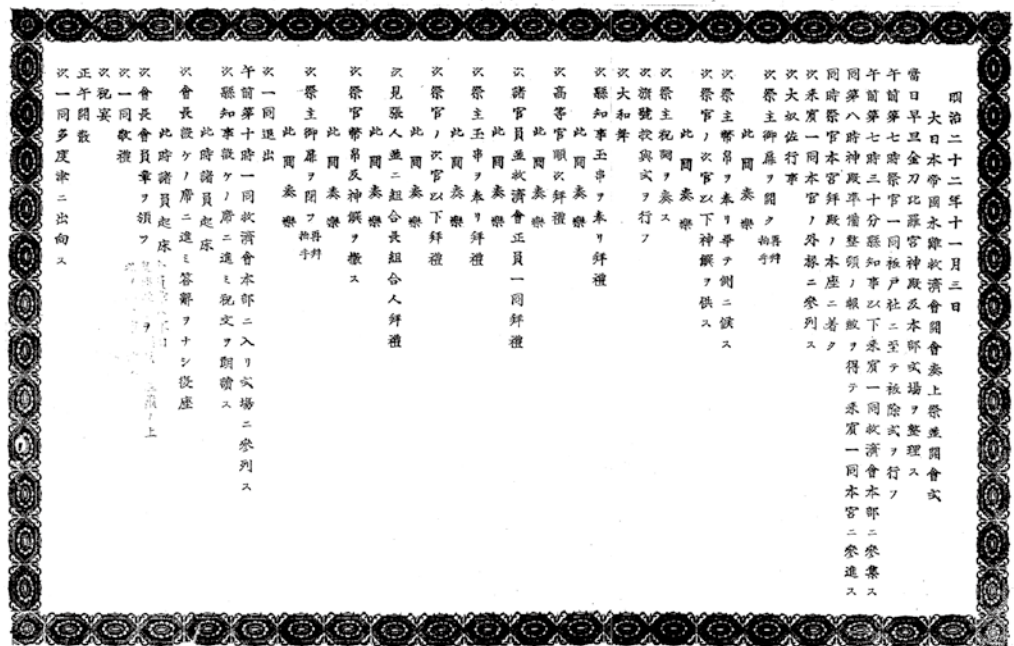
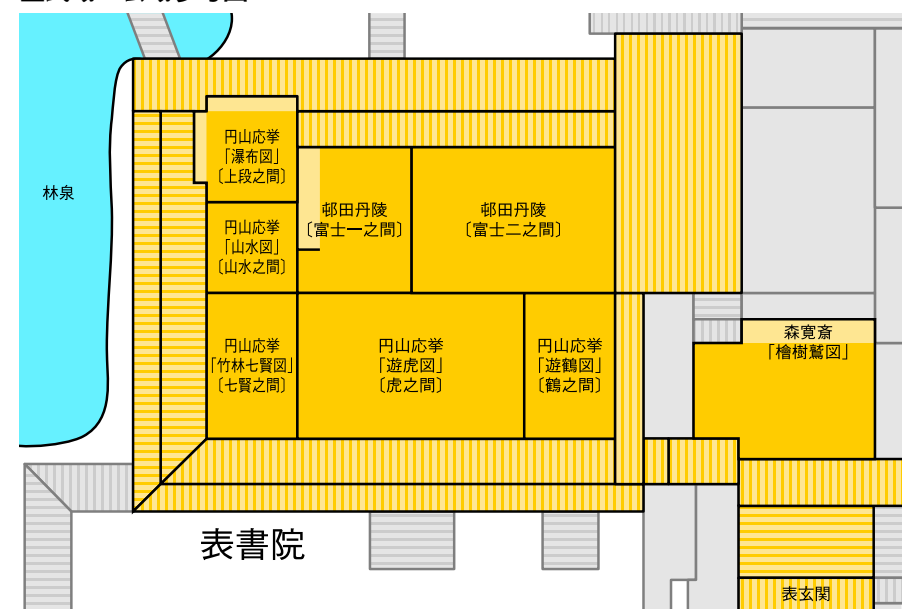
皆様の今後益々のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げ御筆致します。

◆執筆者◆



金刀比羅宮教学顧問
西牟田 崇生氏

■式場・会場参考図



大日本帝国水難救済会開会奏上祭並開会式(次第)

マリンレスキュー MONOギャラリー

水難救助の現場では、間違いなく経験がモノを言います。しかし、もしもそうでない人がそんな場面に直面したら…？
このコーナーでは、初心者からプロフェッショナルまで、最新の「使える」救助グッズを紹介します。

【初心者OKのカンタン便利アイテム編】

目的のポイントへ一直線。使い易さ抜群の救命浮器
パーソナルレトリバー

フリスビーを投げる要領で、遭難者へ向けて投げる救命浮器で、通常の浮き輪などよりも、簡単に遠くへ投げることが出来ます。練習次第では、30m先の要救助者を狙って飛ばすことが可能。

レスキューチューブとスローバッグの機能を持っているのも特徴で、アメリカ沿岸警備隊(USCG)に認定されたアイテムでもあります。

耐久性と柔らかさが考慮した素材のため、要救助者が怪我をすることはありません。



- 仕様 到達距離33m/浮力約4.5kg/動作時間10秒以下/2度目の動作時間45秒以下/直径42.5cm/重さ670g/素材ポリエチレン/ロープの強度290kg
- 価格 25,000円(税抜)
- 問合せ先 ジャパンセイフティプロダクト(株)
TEL 03-3378-2741

いつでもどこでも簡単に学べます

CPR&AED パーソナルトレーニングキット

最近、あちこちにAED(自動体外式除細動器)が設置されているのを見かけるようになりました。でも、いざ実際に使うとなると、使い方がわからなかったり、自信がない方は多いのではないのでしょうか。このキットは、DVDによる解説を見ながら学ぶため、短時間で効率的にCRP(心肺蘇生)やAEDについて学ぶことが出来ます。

さらに、マネキンは空気ですくませるため、コンパクトで持ち運びやすく、いつでもどこでも使用することが可能です。



- セット内容 AEDトレーニングキット/インストラクションDVD/訓練用マネキン/マネキンワイブ(2枚)/模擬携帯電話/トレーニング修了登録ご案内資料
- 価格 4,980円(税込)
- 問合せ先 東京海上日動メディカルサービス(株)
専用ダイヤル
0120-363-938(平日9:00~17:00のみ)

【海上保安庁御用達のプロ仕様アイテム編】

水難救助の最新レンジャー資器材



潜水ヘルメット

潜水作業時の頭部保護として、カヌーやスケボーのヘルメットに穴をあけて、水中での水抵抗を軽減させたものを特殊救難隊で考案。その後、製品化され、消防、警察の潜水部隊など、他機関でも幅広く使用している。



空気もやい銃

【ミロク式救命索発射銃(M-63型)】
充填圧力: 90~130kg/cm²
到達距離: 投射弾70~90m(35°)
浮弾60~80m(35°)
投射索: 3mm×160mポリプロピレン
銃身長: 450mm
本体重量: 4kg



エバックハーネス

特殊救難隊が考案した上半身を布上のハーネスにより包むように装着し、吊り上げる器材。海面漂流者の吊り上げ器材として開発したが、船上からの吊り上げにおいても使用できる。



M2スライダー

特殊救難隊と本庁装備技術部においてリベリング専用降下器として開発されたもの。海洋という特殊環境下において、迅速・確実・安全に、目的とする場所に降下するために開発された。
本体破断強度: 57kN ロック部破断強度: 2.7kN
重量: 340g 材質: アルミニウム 長さ: 6cm
幅: 6.5cm

救難所だより

新設救難所の紹介

海難救助活動の拠点となる新たな救難所が新設されています。今回は、10カ所の新設救難所を紹介します。なお紹介文は、それぞれの救済会および救難所からいただきました。

千葉県水難救済会



館山船形救難所

平成21年1月1日設立 所長以下12名

館山船形救難所は、南総里見八犬伝のモデルとなった戦国大名里見氏ゆかりの史跡などが残る歴史とロマン漂う館山市内にあります。

近年はマリネジャーが普及し、特にプレジャーボートが増加したことに伴い、救難組織の充実が急務となり救難所の設立となりました。

東京都水難救済会



三宅島救難所

平成21年4月1日設立 所長以下71名

三宅島と八丈島では以前から漁業協同組合員のボランティアによる海難救助活動を行ってきましたが、町など行政からの支援体制が整っておらず、その必要性を感じていました。

昨年度、下田海上保安部による各島への定期巡回の際に、救難所の設置及び活動についての説明を受け、その結果、後日改めて救難所設置を申し入れました。

三宅島においては、平成21年4月1日付けで三宅島救難所が開所され、6月1日には開所式及び人命救助訓練などが開催されました。なお、八丈島においては、現在、体制についての調整を行っており、それが整い次第、開所する予定です。

岡山県水難救済会

岡山県水難救済会（会長 黒田晋：玉野市長）では、近年のマリネジャーの普及とともに、県下最大の海水浴場である渋川地区等3箇所において、救難所の設置の準備を進めてまいりましたが、この度、関係者のご協力により、新たに3救難所を設置することとなりました。



岡山ライフセービングクラブ救難所

平成21年5月1日設立 所長以下31名

岡山ライフセービングクラブは、主に渋川海水浴場などの海浜で活動されており遊泳者の監視活動、海浜での清掃活動等を行っています。

平成21年6月27日には、渋川海水浴場の海開きに併せて「岡山ライフセービングクラブ救難所」の開所式を行い、岡山水難救済会会長から救難所長に対し救難所看板、会旗、AED（自動体外式除細動器）等の救難資機材の授与が行われました。その後、同救難所員等による沿岸海難救助訓練が実施されました。



小串漁業協同組合救難所

平成21年5月1日設立 所長以下14名

小串漁業協同組合は、小串港内に所在しており、隣接する周辺海域には、浅瀬、定置網及びのり養殖網が設置されており、熟知していないと二次海難の発生も危惧される海域でもあり、これまでも岡山港内及び隣接する海域等の海難事案に中心的に対応してきた実績があります。



スズキマリーナ神島レスキューステーション

平成21年5月7日設立 所長以下4名

スズキマリーナ神島レスキューステーションは、笠岡市に所在する東中国スズキ自動車株式会社が経営しているマリーナであり、かねてから、笠岡市周辺に救難所がないことから、笠岡市周辺で、当会の趣旨に賛同していただける団体を模索していたところ、今回賛同を頂き救難所として設置されたものです。

香川県水難救済会



庵治救難所 平成21年7月13日設立 所長以下163名

内海救難所 平成21年7月13日設立 所長以下99名

四海救難所 平成21年7月13日設立 所長以下76名

香川県水難救済会は、今年5月に本会多度津救難所白方支所が海難救助の功績を認められ日本水難救済会名誉総裁表彰を受賞したこと、本会の会長に琴陵泰裕氏（金刀比羅宮禰宜）が就任されること等がきっかけとなり、高松市所在の「庵治漁業協同組合」、小豆島町所在の「内海町漁業協同組合」及び土庄町所在の「四海漁業協同組合」が本会の趣旨に賛同し、平成21年7月13日の総会において、新会長から、高松海上保安部長、日本水難救済会理事長等の顧問・来賓が見守るなかで、庵治救難所、内海救難所、四海救難所の救難所設置承認書が交付されました。

この3救難所が入会したことにより、本会は、7救難所1支所（救難所員419名）となり、高松市北東海域及び小豆島周辺で発生した海難への出動が可能となり、香川の海海難救助体制が格段に強化されました。

今後、香川県西部海域についても、マリーナ、漁協等に対して、水難救済会の趣旨に賛同していただけるように働きかけ、救難所の拡充を進めていきます。

長崎県水難救済会



中野救難所

平成21年4月6日設立 所長以下37名

今回、救難所を開設して間もなく平戸では巻き網漁船の海難事故が発生し、捜索活動を実施しました。マスコミ関係の必要以上の取材には手を焼いたところもありましたが、我々は海に生きる者としてボランティア捜索活動には参加する義務があると常々心に持ち続けています。このような事故が二度と起きないことを祈ります。

鹿児島県水難救済会



志布志市救難所

平成21年4月1日設立 所長以下241名

志布志港は南九州の物流拠点港湾として、CIQ機能（税関、入国管理、検疫）を備えた九州唯一の中核国際港湾として、そして、日本有数の農畜産地帯への飼料供給基地として大きく発展しているところです。また、志布志港新若浜地区に多目的国際ターミナルの整備が進められています。

その一方で、志布志湾沿岸海域においては、釣りなどによる堤防や磯からの転落による人身事故やボートの衝突等の船舶事故が発生しており、今後もこれらの海難事故等が増えることも心配されることです。

このようななか、本市では海難事故における人命救助を行うボランティア団体として、志布志市救難所の設立に向けて、志布志海上保安署の協力のもと関係団体と協議を進めてまいりました。そして、漁業組合、消防団、小型船舶安全協議会、小型船舶同志会、曾於ダイビングセンター、釣船主会の6団体により、平成21年4月1日に所員合計241名で、鹿児島県内では40番目の救難所の設立となりました。

海難救助訓練

平成21年度海難救助訓練指定数は、「救助訓練実施要領平成21年度版」で各県水難救済会別に合計で277件が指定されています。ただし、予算の範囲内であれば、指定数を越えて訓練を実施しても助成金を交付することが可能ですので、できるだけ多く訓練を行うようお願い致します。

訓練の実施要領としては、毎年配布する当該年度版の訓練実施要領のほか、「救難所員訓練必携」と「海難救助作業マニュアル」を各救難所に配布しておりますが、日本版の救急蘇生ガイドラインが変更になっていることや救難資器材の型式が新しくなっていることから、これに対応して平成21年2月に改訂版を作成し、4月に各県水難救済会に救難所分も含めて配布しましたのでご利用ください。

なお、平成20年度に行われた訓練の実績は、全国37の地方水難救済会において、延べ317の救難所、支所から5,764人の救難所員が参加して実地訓練が行われました。



秋田県水難救済会

平成21年7月11日、秋田県男鹿市戸賀港において「第43回海難救助訓練大会」が開催されました。同大会には、9箇所の救難所、男鹿消防本部、秋田県消防防災航空隊、巡視艇「すぎかぜ」が参加し、救命索発射操法、ゴムボート操法、もやい綱投てき、心配蘇生法の競技に取り組みました。また、海難救助合同訓練や海難事故防止（ライフロープ）活動を実演しました。



北海道漁船海難防止・水難救済センター

北海道久遠救難所では、上浦支所、太田支所、久遠支所も参加して平成21年4月24日、せたな町上浦漁港において合同訓練を行いました。来賓に町長、消防団団長、漁協組合長、せたな警察署駐在所、瀬棚海上保安署長を招き、瀬棚海上保安署の

指導で基本動作、もやい銃による孤立者救助訓練、人形を使用した心肺蘇生訓練、消防ポンプを使用した火災船救助訓練を行い、瀬棚海上保安署長から基本動作、応用訓練動作が概ね的確で総合的に良好との講評をいただきました。



福島県水難救済会

平成21年8月4日、いわき市久之浜漁港において、久之浜、四倉、沼之内、豊間の各救難所、福島県漁連、福島県水救会事務局、福島県水産事務所、福島保安部陸上職員、巡視船「なつい」を含む合計70名、船艇2隻が参加しての合同訓練を実施し、水難救済会の活性化、海難救助の知識・技能の向上、官民各救助機関の連携を図りました。



岡山県水難救済会

平成21年6月19日、岡山市南消防署救急救命士他2名および玉野海上保安部救難係2名を講師に迎え、小串漁業協同組合にて「普通救命講習会」を実施しました。救助員14名、他4名の受講者は、AEDを使用しての心肺蘇生法等の講習に取り組みました。



山形県水難救済会

平成21年7月18日、酒田市大浜海岸において、酒田、袖浦、宮海の3救難所の救助員68名が参加し、水難救助合同訓練を実施しました。訓練では、ゴムボート操法、もやい銃発射、心肺蘇生法の各訓練及びこれらの訓練に想定船排水・消火作業訓練を加えた総合海難救助訓練を実施しました。



琉球水難救済会

平成21年6月18日、沖縄県恩納村のサンマリーナ前面海域において、「恩名・読谷地区救難所員合同訓練」を実施しました。参加したのは、サンマリーナホテル、リザンシーパークホテル、ムーンビーチ、ルネッサンス、万座ビーチ、残波ビーチ、そして恩名を加えた7つの救難所から合計20名。心肺蘇生やAED取扱い訓練、2人の行方不明者を想定した救助訓練を行いました。



大分県水難救済会

平成21年7月20日の「海の日」に行われた大分海上保安部主催の「合同沿岸海難救助訓練」に参加しました。大分海上保安部、大分県スキューバダイビング安全対策協議会、磯釣連盟、水上オートバイ（エフカンパニー）が参加し、総勢115名により訓練が行われ、水難救済会は、海中転落者救助訓練、機関故障船曳航訓練、火災船曳航訓練、海中転落者捜索訓練を行いました。また、この日、青い羽根募金への協力を呼びかけ多数の方から募金をいただきました。

海難救助活動レポート

平成21年の1月～6月までの海難救助出動件数は193件で、164人の人命救助と102隻の船舶救助に関わりました。また、これらの中には、4月14日に長崎県平戸市尾上島北北西約12.6キロで22名乗組の巻き網漁船第11大栄丸（135トン）が転覆し、12名が行方不明となり、報道で大々的に取り上げられた大きな海難も含まれています。この時の海難救助出動には、長崎県水難救済会の7つの救難所から延べ656人の救助員が出動して捜索にあたりました。

全国の統計でみると、海難救助に出動した救難所員は延べ5,121人、救助船は延べ1,564隻、協力船は延べ272隻でした。これを昨年度の同じ時期と比較すると、出動件数で52件増加し、救助人命は68人の増となりました。出動した救助船は358隻の増で、出動救助員は102人少なくなっています。

二次災害発生の危機の中で決死の救助活動

和歌山県紀南西部救難所

高知県所在の漁船A丸は、平成21年4月27日午前1時頃、高知県高岡郡所在の漁港を出港、午前2時頃から鰹一本釣りを操業し、操業を終え港に戻ろうとしたが、自船の位置を見失い迷走航行を続け和歌山県日高郡みなべ町沖合の暗礁に乗りあげた。

午前2時頃、和歌山県紀南西部救難所所属の洋漁丸が乗りあげているA丸を発見し、船長を救助。さらに僚船とともに離礁させ浸水していたことから排水作業をしつつ船体も救助した。

当時は夜間であり、北の風6メートル、波浪1メートルの気象海象の状況であり、た、付近海域は暗礁が数存在し、二次海難も生ずる可能性もある中の救助作業だった。



和歌山県紀南西部救難所の皆さん

機関室から突然の出火時に見せた冷静な消火活動

宮崎県北部救難所

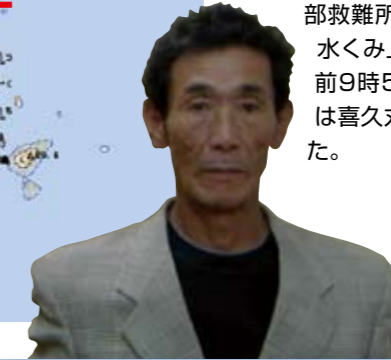


出典：「電子国土」

平成21年6月7日午前9時15分頃、漁船K丸の船長は、息子所有のプレジャーボートの係留用アンカーを揚げるため、親子二人で漁船K丸に乗船し同船の巻揚げローラーを使用し、アンカー2丁を揚げ対岸のマリーナに向かった。

航走開始後、機関室入り口から煙が出ていたため、機関を停止し船内にあったバケツで消火をしたが鎮火せず、118番に通報した。

海上保安庁から出動要請を受けた宮崎県北部救難所所属の喜久丸が現場に急行、海水くみ上げポンプで消火活動を行い、午前9時58分、火災は鎮火し、漁船K丸は喜久丸により付近の港に曳航救助された。



宮崎県北部救難所
小野 和文さん

呼吸停止状態の遭難者を救った迅速かつ的確な救急技術

茨城県水難救済会久慈救難所



茨城県水難救済会久慈救難所
班長 大貫 定男さん

平成21年1月17日午後3時25分、久慈漁港内で釣りをしていた人が海中に転落したとの連絡が茨城県水難救済会久慈救難所班長に入った。直ちに救難所員の招集を依頼するとともに付近に係留してあった船に出港を依頼し、協力者とともに救助に向かった。

転落現場付近でうつぶせ状態で浮いていた遭難者を発見し、防波堤側から支援してくれた協力者1名も加わり船内に収容したところ心肺停止状態だった。しかし、班長が間断なく心肺蘇生を繰り返しながら岸壁まで搬送し、午後4時11分に救急隊に引き継いだところ、遭難者は、顔に赤みがさしてきて自発呼吸を回復、病院に搬送されて一命をとりとめた。

浸水、転覆した漁船から2名の命を救う

長崎県島原中部地区救難所

平成21年1月28日午後4時頃、2名乗りの漁船が浅瀬に乗り上げ、船尾より浸水して転覆、携帯電話で漁協に通報があった。その直後に三池海上保安部からも救難所に連絡があり、事故を目撃した救難所所属漁船が他の救助船に連絡をとり現場に急行した。

駆けつけた2隻の救助船により、転覆した船の船底に掴まっていた2名を救助して陸に搬送した。転覆船はその後駆けつけた救助船により港まで曳航、流出油拡散防止のオイルフェンス展張と油吸着マットによる油回収が行われた。



長崎県島原中部地区救難所の皆さん

福井県高浜水難救難所

平成21年6月7日午前4時10分頃、福井県大飯郡高浜町和田港内城山海水浴場に乗揚げた6名乗り組みのプレジャーボートを地元民が発見し、直ちに救難所員である若狭高浜漁協組合長に通報した。
同組合長指揮の下、総員6名、救助船2隻を出動させ、曳

航ロープ等を使用した救助活動により乗揚げ船を引き出し救助を完了した。

和歌山県紀中救難所戸津井崎支所

平成21年2月19日午前7時30分頃、1人乗り漁船の船長が引き網漁作業中、脳梗塞を発症した。無線で呼びかけても応答がないことから、僚船である救難所支所長が搜索したところ漂流している漁船を発見した。移乗したところ船内に倒れている船長を発見、僚船である他の救難所員にも応援を求

め、近くの漁港まで搬送、救急車に引き継いだ。
遭難者は搬送先の病院で脳梗塞と診断され、集中治療室で治療を受けたが生命に危険はなかった。無人となった漁船は救助船により戸津井漁港まで曳航した。

千葉県金田救難所

平成21年3月22日午前5時40分頃、木更津海上保安署から千葉県金田救難所にプレジャーボートが転覆しているとの連絡が入った。直ちに救難所長が所員を招集し、救助船2隻で出動、午前6時30分頃現場に到着すると、乗員3名はすでにヘリコプターによる救助を受けていた。ところが、現場は

強風高波のため転覆船の救助は困難を極めたが転覆状態のまま港まで曳航、午前10時20分陸揚げして救助作業を完了した。

宮崎県中部救難所

平成21年1月25日、出漁した1人乗り漁船が入港予定時刻の午後4時30分になっても帰港しなく、連絡もとれなくなっていることから海上保安庁に118番通報すると共に搜索を開始した。
午後10時53分頃、搜索中の救難所所属船が約十海里沖の

海上で左に旋回しながら航走している遭難船を発見、移乗したところ船内に船長が倒れていた。救助船に移すことは困難な状況であったことから港まで曳航、海上保安部による調査の結果、船長は昼頃には既に病死していたことが判明した。

山口県大島救難所

平成20年12月4日午前11時45分頃、救難所員が出漁中の海域でマネキンらしきものを認めた。一旦通過したものの黒っぽい頭が見えたことから人であることが分かり関係先に通報、引き返して船上に引き上げようと試みたが漂流者は意識があるものの動けず1人では無理なことから、付近にいた

救難所所属船に協力を求めた。3隻3名の救助員が協力して船内に収容し柳井港に搬送、救急車に引き継いだ。
柳井海上保安署の調べで、漂流者は大島大橋から投身自殺を図ったことが判明したが、命に別状はなかった。

琉球浦添宜野湾救難所

平成21年3月15日午後10時30分頃、第十一管区海上保安本部から救難所長に座礁しているプレジャーボートの救助要請があった。救難所長は、潜水漁に出漁している救難所員に対し救助に向かうよう連絡、救助員5名が漁を切り上げて救助船で現場に向った。午後11時30分頃現場に到着、3名

の救助員が泳いでボートにたどりつき、リーフの上を歩いて陸まで誘導して5名を救助した。
座礁したボートは満ち潮を利用して離礁させ曳航、16日午前2時頃、浦添漁港に入港した。

山形県豊浦救難所

平成20年11月25日午後2時30分頃、出漁中の救難所員から船上に人が確認されない漁船がいるとの通報が入った。通報を受けた救難所では、直ちに救難所長に連絡し出動命令を発令した。酒田海上保安部に通報するとともに搜索活動を開始、エンジンがかかったままの無人の漂流漁船は救難所

員2名が移乗して回航した。
行方不明となっている船長の搜索は、延べ救難所員157名、救助船59隻により29日午前10時45分まで続けられたが発見できなかった。

鹿児島県南さつま市救難所

平成21年4月24日午後3時頃、磯に係留されていたプレジャーボートが強風と波の影響を受けて流され転覆した。近くの瀬で魚釣り中の乗員2名が取り残されて孤立しているところを県警のヘリコプターが発見、串木野海上保安部から救難所に出勤要請があった。救難所では2隻の救助船を出動さ

せ、1隻が孤立者2名を収容、他の1隻が流出転覆したボートを曳航し近くの漁港に搬送した。救急車が待機していたが、遭難者はケガもなく無事で、ボートの引き上げ作業終了後、午後3時45分救難所現地対策本部を解散した。

洋上救急

事業開始以来、平成21年8月末までに677件もの洋上救急事案に対応しています

洋上救急事業は、社会保険庁や各諸団体からの資金援助と医療機関、医師・看護師、海上保安庁や自衛隊の全面的な支援を受けつつ、昭和60年10月の事業開始以来、平成21年8月末日までに677件の事案に対応してきました。これまでに傷病者705名に対し、医師843名、看護師433名が出動し、診察や治療を行っています。

平成21年8月16日20:00発生

吐血した漁労長を洋上で吊り上げ収容

16日20時頃、漁場へ向け航行中、漁労長が胃の痛みを訴え、吐血及び血便の症状が見られた。横浜済済会病院に医療助言を受けたところ、早急に医師の診察が必要との判断から洋上救急の要請があった。

ヘリMH907に医師1名及び看護師1名が同乗し仙台空港基地から出発、洋上の巡視船「くりこま」に着船した後、改めてヘリは該船に向かった。

現場に着くと直ちにヘリは該船より患者を吊り上げ収容し、石巻赤十字病院ヘリポートに向かい、その約2時間半後に患者を病院に引き継いだ。

【発生位置】金華山灯台から東北東約300海里 北緯40度20分 東経148度21分
【傷病者】男性・62歳漁労長（傷病名）胃潰瘍（血便、吐血）
【出動医療機関、医師等】仙台医療センター 医師：1名 看護師：1名
【出動勢力】宮城海上保安部巡視船くりこま、仙台航空基地ヘリ MH907、飛行機 MA869 くりこま潜水士2名



平成21年6月13日12:00発生

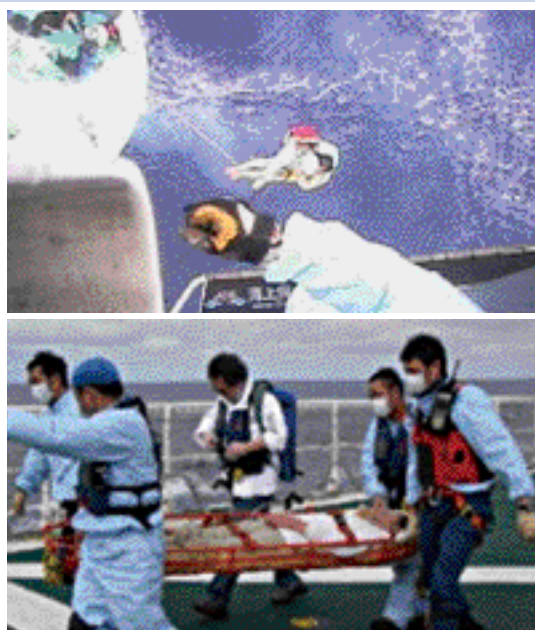
同時期に2件の患者が発生、いずれも洋上救急で助かる

船長が体調不良と手足の痺れを訴え、やがて意識が混濁したため、台湾RCCから洋上救急の要請があった。

直ちに巡視船「ざおう」が発動し、さらに巡視船「しきしま」を派遣要請。それを受け、仙台空港基地からヘリMH906で医師1名、看護師1名が「しきしま」へ着船。

翌日、医師1名、潜水士2名を同乗し「しきしま」を出発したヘリMH686が患者を揚収。その後、ヘリは「しきしま」を経由して「ざおう」へ。そこで本件の患者1名、同時期発生事案の患者1名と医師等2名を同乗し羽田基地へ向かい、到着後直ちに患者を救急車に引継ぎ、東京労災病院に搬送した。

【発生位置】金華山灯台から東南東約894海里北緯31度27分東経157度41分
【傷病者】男性・50歳船長（傷病名）脳梗塞
【出動医療機関、医師等】仙台医療センター 医師：1名 看護師：1名
【出動勢力】横浜海上保安部 PLH しきしま、しきしま搭載ヘリ MH686、潜水士2名、PLH ざおう、ざおう搭載ヘリ MH574、PL くりこま、潜水士2名、仙台航空基地 MH906



海上は危険と隣り合わせの場所であることを実感

「洋上救急の要請があったので、医師と向かうように」という指示があったのは当日の朝、病院に出動した直後でした。初めてのことで、「自分に務まるのか?」「船酔いは大丈夫か?」など不安な気持ちでいっぱい。患者に接触するまでの時間がとても長く感じられましたが、随時入る情報から、患者がどのような状態なのかを予測し、必要な処置などをシミュレーションしていました。

巡視船の医務室には豊富な備品が揃っていましたが、機器などは普段使用しているものと違うため、作動状況などのチェックが必要でした。実際に患者と接触した時は、想像していたよりも元気で安心しましたが、台湾人の方だったので、漢字を一文字ずつ書きながらコミュニケーションをとりました。

海の上は、船酔いさえなければ意外に快適な場所でしたが、傷病の際には、すぐに治療が受けられないため、やはり怖い場所でもあるということを改めて実感しました。

洋上救急に出動した看護師 三上 房子さん



平成21年6月10日09:45発生

心肺停止状態の船舶調理人を乗船医師が蘇生

船舶調理人が突然倒れ心肺停止状態となり、乗船医師により CPR を実施した結果、蘇生。該船の搭載ヘリで患者を硫黄島に搬送。鹿児島建設から洋上救急の要請があった。

飛行機 LAJ500 に医師2名と特救隊員2名が同乗し羽田航空基地を出発。硫黄島に到着すると、直ちに患者を引継ぎ羽田航空基地に向け出発。機内で医師による治療をしつつ搬送。羽田空港に到着してから患者を救急車に引継ぎ、日本医科大学付属病院に搬送された。

【発生位置】東京都沖ノ島島から南約1海里北緯20度25分東経136度05分
【傷病者】男性・54歳船舶調理人（傷病名）急性心不全心肺停止
【出動医療機関、医師等】日本医科大学付属病院 医師：2名
【出動勢力】羽田航空基地飛行機 LAJ500 特救隊員2名、作業船搭載ヘリ

平成21年1月6日03:00発生

意識不明となった貨物船の乗組員を救った洋上救急

洋上を航海していた貨物船の乗組員が倒れたとき、すでに意識不明状態。船長からの洋上救急の要請を受けた海上保安庁は、ヘリに機動救難士3名を同乗させ、関西空港から高知空港へ向けて出発。高知空港で医師2名が同乗し改めて該船へ。現場に着くと、直ちに患者を吊り上げ収容。医師による治療を続けつつ、高知空港へ向かい、無事救急車に患者を引き継いだ。

【発生位置】高知県足摺岬灯台から南南西約47海里
【傷病者】男性・56歳一等航海士（傷病名）脳内出血
【出動医療機関、医師等】高知医療センター 医師：2名
【出動勢力】関西空港基地ヘリ MH687 機動救難士3名

平成21年 その他の洋上救急の状況 (平成21年8月末時点)

発生日時	発生位置	傷病者	状況
平成21年7月1日(20:00)	金華山灯台から東約600海里 北緯36度07分東経141度26分	男性・62歳漁労長（傷病名）狭心症	漁労長が胸の痛みを訴えたため、洋上救急の要請があった。翌朝、航空自衛隊に災害派遣要請。自衛隊のヘリUH-60Jに医師1名及び看護師1名が同乗し出発、該船に向かった。翌朝には該船より患者を吊り上げ収容。ヘリは松島基地に着陸、患者を救急車に引継いだ。
平成21年6月16日(17:00)	金華山灯台から南東約490海里北緯36度07分東経141度26分	男性・24歳甲板員（傷病名）船倉内転落頭部、胸部打撲	甲板員が船倉に転落した際、尻部、右胸部及び頭部を強打。頭痛を訴え、食欲もなくなったことから船主から救急要請があった。「ざおう」搭載ヘリMH574は現場へ到着すると患者及び付添人を吊り上げ収容。さらに「ざおう」で患者を引き継いだMH686により、本件患者及び付添人、同時期発生事案の患者1名と医師2名を同乗し羽田基地へ向け出発し、基地で患者を救急車に引継ぎ、大森赤十字病院に搬送された。
平成21年6月9日(14:40)	長崎県福江島から西約57海里(北緯32度22分東経127度30分)	男性・39歳甲板員（傷病名）高所から転落	甲板員が船内の船倉に転落、意識不明となった。該船の船長から洋上救急要請があった。ヘリMH908に機動救難士2名を同乗し、福江空港向け福岡航空基地を出発。福江空港で医師1名を同乗し、該船向け出発。18:00該船と合会。18:12機動救難士2名が該船に降下した。医師により死亡が確認されたため洋上救急打ち切り。
平成21年1月2日(07:00)	小笠原諸島父島から東約177海里	男性・37歳船長（傷病名）扁桃腺炎	まぐろ延縄漁船の船長が自室にて休憩中に口から血及び泡を吐き、呼吸困難となった。医療助言を受け、船主から洋上救急の要請があった。海上自衛隊に災害派遣を要請。海上保安庁は、飛行機(LAJ501)に医師2名を同乗させ、硫黄島向け、羽田基地を出発。海上自衛隊のヘリ(UH-60)が該船から患者を吊り上げ収容した。飛行機(LAJ501)は硫黄島において患者を引継ぎ、機内で医師による治療をしつつ羽田基地に患者を搬送。患者は救急車に引き継がれた。

洋上救急の発生状況 (昭和60年度～平成20年度)

年度 項目	昭和60年 ～63年	平成																			計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		20
発生件数	98	42	36	35	42	30	29	27	16	31	30	32	23	18	24	23	37	31	16	26	21	667
傷病者	101	47	36	36	45	35	29	28	16	31	30	32	23	18	24	28	41	31	16	27	21	695
医師等 (看護師の再掲)	193	71	63	65	77	60	54	53	33	53	52	60	50	36	46	50	68	54	31	51	37	1257
海上保安庁																						
巡視船	98	34	30	24	25	16	13	24	11	23	11	23	16	13	11	14	28	19	16	19	11	479
航空機	120	55	52	47	65	34	29	35	18	35	30	21	24	16	34	30	60	43	25	31	32	836
特救隊等	29	18	20	14	20	22	18	17	15	12	20	12	10	11	10	18	25	25	17	26	32	391
自衛隊機	23	12	2	5	**	4	7	6	4	7	10	19	16	10	13	13	10	12	3	20	7	203
民間船	1	**	**	**	1	**	1	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	3

互助会事務局より

1 事務局職員の交替

8月11日より山口 恵さんに担当してもらっております。
よろしく、お願い致します。

2 互助会入会(更新)時期について

ご案内のとおり、21年度・互助会入会(更新)時期は、
加入申込日 21年8月31日(原則)
会費納入日 21年9月30日(原則)

*災害補償・見舞金給付対象は21年10月1日からとなりますが、会費納入が遅れますと、効力は会費納入の翌日からとなりますので、ご承知おき下さい。(年度途中加入についても同様です。)

3 加入者数の現状について

加入者数 21,560名(21年7月現在)
救難所員数 54,151名(21年3月現在)
加入率 39.8%

4 給付事業発生状況について

災害見舞金給付 1件(20.12.12付)長崎県水難救済会管内
私物損害見舞金給付 1件(21.3.26付)北海道海難防止・水難救済センター管内

5 互助会加入案内について

年会費500円での災害補償及び各種見舞金等、他に類を見ない制度・内容であると確信しております。また、見舞金給付内容等については実情に合わせ見直しを行い、より充実した内容にして参りたいと考えております。

互助会規則等ご理解の上での、加入をお勧めします(次ページ参照。)

6 問い合わせについて

互助会についての、疑問・質問等、問合せ先は
事務局 五十嵐又は、山口が承ります。

救難所員等の皆さんへ!! **500円**で大きな安心を!

MRJ互助会・会員募集

従来の「災害共済制度」は、平成18年の改正保険業法の適用により当会による運営が困難となり、平成20年10月1日に廃止しました。

日本水難救済会では、「災害共済制度」に替わる「制度」として「日本水難救済会救難所員等互助会」(以下「MRJ 互助会」という。)を設立し、平成20年10月1日から運営することとなりました。

MRJ 互助会は、会員及び家族(以下「会員等」という。)の互助救済と福利増進を図る観点から、各種事業を行うことにより、会員等の生活の安定と福祉に寄与することを目的としております。

なお、年会費(500円)、入会手続き等は従来と同様です。

是非、多くの皆様に会員になって頂けるよう、お願い申し上げます。

事業の内容

1 災害給付事業・・・継続

- ・東京海上日動火災保険(株)と契約
- ・会員が、水難救助業務中に災害を受けた場合の補償

2 休業見舞金給付事業・・・継続

- ・会員が、水難救助業務中に負傷し又は疾病にかかり、従前得ていた業務上の収入を得ることができない場合に見舞金を給付

3 私物損害見舞金給付事業・・・新規

- ・会員が、水難救助業務中に携帯していた私物を破損、消失、遺失した場合、当該私物と同程度の物の購入又は修理等に要する経費を給付

4 遺児等育英奨学金事業・・・新規

- ・災害給付を受けた会員の遺児に対して、遺児育英奨学金の給付及び貸与を実施

5 災害見舞金給付事業・・・新規

- ・自然災害又は火災等により、住居及び家財又はそれらのいずれかに被害を被った場合に見舞金を給付

全国各地から寄せられた投稿を紹介します。

レディースパワーで広報活動を盛り上げます！

岡山ライフガードレディースが発足

平成21年8月11日、岡山県漁業協同組合女性部による女性ライフジャケット着用推進員「おかやまライフガードレディース」が発足し、盛大な発足式が催されました。海上保安部や岡山県など関係機関から多数の来賓の方々が見守る中、岡山県水難救済会会長からの委嘱状交付、「おかやまライフガードレディース」代表奥野ミエ子岡山県漁協女性部連絡協議会会長による宣誓が行われました。

今後、岡山県では、この「おかやまライフガードレディース」が岡山県水難救済会とともに主体となって、女性の活力を存分に生かした“ライフジャケット着用率100%”を目指しての各種啓蒙活動を鋭意推進していくこととしており、これに、水島・玉野海上保安部、岡山県、岡山県漁協連合会の関係各機関等が支援・協力していくことになっています。

投稿：玉野海上保安部



「おかやまライフガードレディース」発足式



岡山県水難救済会 会長（黒田 晋 玉野市長）からの委嘱状手交

レスキュースレッド配備で救助体制を強化！

ボビーズレスキューステーションが人命救助講習会を開催

ボビーズレスキューステーションは、岡山県水難救済会の救難所として、岡山県沿岸海域における救助体制の強化を図ることを目的に、レスキュースレッドを配備していただきました。これに伴い、平成21年7月8日、(財)尾道海技学院日本海洋技術専門学校教頭の中田善方氏を講師に招き、水上オートバイによるレスキュースレッドを用いた人命救助講習会を開催しました。

講習会には、ボビーズレスキューステーション及びオバタボート救難所の救助員7名のほか、岡山県警機動隊8名、水島、呉海上保安部職員7名も参加。水上オートバイの特性を生かした迅速且つ的確な救助方法を学び、同時に機関同士での連携も深めることができました。

投稿：株式会社オバタボート救難所



ボビーズRSへのレスキュースレッド引渡し式



救難所救助員による救助訓練

INFORMATION

●助成金を受けて行う事業には助成団体を明示

本会及び地方組織が行う事業には、日本財団をはじめとする団体から助成金等の交付を受けて実施しているものがあります。ご承知のことと思いますが、海難救助訓練などがこれにあたります。

従って、看板や訓練資料、機材などを購入あるいは作成するに当たっては、これら助成金を受けている団体名を必ず表記するよう、改めてお願いします。

●日本水難救済会会員募集

日本水難救済会では、会員（2号正会員又は助成会員）となって本会の事業を支援していただける方々を募集しています。

2号正会員資格は、本会の事業目的に賛同して、年会費1口1万円（1口以上）を納付された方で、会員になりますと、総会に出席することにより当会事業に参画できます。

賛助会員は、金品を寄付することにより本会の事業に貢献いただくもので、寄付された方は、法人税・所得税の控除を受けられる特典があります。

希望される方は、当会に連絡いただければ、入会申込書をお送りしますので、必要事項を記入してお申し込み下さい。

編集後記

★本号から誌名をマリンレスキュージャーナルに改め、内容を全面刷新し、より親しみやすい誌面を目指しました。特に、人物に焦点をあて、できるだけ水難救済の現場の心意気が伝わるように心がけました。

★当会は今年で設立120周年を迎えました。日本水難救済会が辿ってきた道を探る歴史レポートをシリーズで掲載することとしました。金刀比羅宮学芸顧問の西牟田さんご協力ありがとうございました。

★今号から現場取材を敢行し、最前線に身を置く人々の素顔を追った「マリンレスキュー紀行」掲載しました。初回は伊豆地区水難救済会稲取救難所の皆さんにご協力をいただきました。今後全国各地の救難所をレポートしていきますので楽しみにしていただきたいと思います。取材は先入観のない目の方が新鮮な内容になるのではということで、専門の方にお申しました。エイアンドエー(株)秋山さん、金田さんのご協力を深謝します。金田さんは、稲取で金目鯛の味噌汁をいただき、そのおいしさの感動を「港グルメ」のコーナーにて伝えています。

★ホームページも活用して、情報を広く発信・共有していきますので、全国の皆様から現場の便りや写真等の情報提供をお願い致します。(常務理事 上岡)